

令和3年度認定

【計画名：豊岡市地域計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
観光入込客数の増加(外国人延べ宿泊数)(人)	10,000	523	5%	10,000	17,541	175%	20,000		63,650		70,000	
豊岡演劇祭来場者数(人)	5,203	—	—	5,723	18,250	319%	6,295		6,924		7,616	
観光入込客数の増加(国内旅行者延べ宿泊数)(千人)	1,115	653	59%	1,115	856	77%	1,115		1,115		1,115	
観光消費額単価(円)	25,100	26,880	107%	25,200	32,851	130%	25,300		25,400		25,500	
ネットプロモータースコア(国内)(ポイント)	18.9	26.9	142%	19.0	28.7	151%	19.1		19.2		19.3	
ネットプロモータースコア(海外)(ポイント)	63.5	77.3	122%	63.5	90.3	142%	63.5		63.5		63.5	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数(外国人延べ宿泊数)について、R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて目標値を大きく下回ったが、R4年度は移動制限等の緩和や豊岡市外国人旅行者向けサイト「VisitKinosaki」での早期のプロモーションが功を奏し、目標値を大きく上回った。 豊岡演劇祭来場者数については、R3年度は緊急事態宣言の発令を受けて豊岡演劇祭の開催を中止したため実績なしとなったが、R4年度は新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで開催し、延べ来場者数は目標値を大きく上回った。 観光入込客数(国内旅行者延べ宿泊数)は、新型コロナウイルス感染症による移動制限等の影響を受けたことにより目標値を下回った。R4年度は国等の旅行支援などにより回復傾向にある。 観光消費額単価(国内で宿泊を伴う旅行者)とネットプロモータースコアについては、目標値を上回る結果となっている。これはコロナ禍においても粛々と事業を実施した結果と城崎温泉が街全体で高付加価値化事業に取り組んでいる成果だと考えている。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6項目の計画目標のうち、5項目を達成することができた。 唯一未達成である観光入込客数(国内旅行者延べ宿泊数)については、新型コロナウイルス感染症による移動制限等の影響を大きく受けたことが原因と考えており、新型コロナウイルス感染症の収束と本計画の事業を粛々と実施することにより、目標達成できるものと考えている。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
1-①	城崎国際アートセンターテレワーク施設を活用したモニターツアーによる文化観光施設の魅力発信事業	動画を2本作成。	「城崎国際アートセンター」に新たに整備したテレワーク施設を活用した市内文化施設の周遊などのメディアツアーを実施。			24.3百万円
1-②	玄武洞などジオサイトにおける屋外文化体験による魅力強化事業	ジオサイトでの演劇公演を計画したが中止。	豊岡演劇祭開催中に玄武洞、竹野海水浴場、神鍋高原など山陰海岸ジオパークのジオサイトで8団体で計22回の演劇公演を実施。			
1-③	大道芸パフォーマンス公演事業	—	「豊岡 meets 大道芸」として夏期6日間：但東地域、城崎地域、竹野地域と秋期11日間：豊岡市街地、日高地域、出石地域で計21公演を実施。			
1-④	廃ビル・空き店舗・空きスペースなどを活用した交流拠点化事業	廃ビル・空き店舗・空きスペースでの公演を計画したが中止。	豊岡演劇祭のチケット発売やインフォメーションを担う「フェスティバルセンター」を、交通アクセスしやすい立地の空き家となっていた古民家を改装して設置。			
1-⑤	文化資源を活用した観光客回遊促進事業	—	—			
1-⑥	文化観光資源×デジタルアート事業	デジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成を計画したが中止。	—			
1-⑦	美しい村を舞台とした演劇公演事業	美しい村を舞台とした演劇公演を計画したが中止。	アーティストが地域の子供たちと交流し、オリジナルの神楽を創作するワークショップを行い、地域に伝わる民話をもとにした芝居神楽「但東さいさい」を完成させた。 豊岡演劇祭2022では、3か所の農村歌舞伎舞台(舞堂)で「但東さいさい」(計3回公演)を開催し、その後、創作の裏側を記録した映像作品の上演会を実施。			
1-⑧	豊岡演劇祭事業	豊岡演劇祭2021を計画したが緊急事態宣言の発令を受けて中止。(補助事業外)	豊岡演劇祭2022(2022年9月15日～25日)を開催。77団体が参加、96プログラムを実施し、延べ18,250人が来場した。(補助事業外)			

2-①	路線バスロケーションシステム事業	—	—			
2-②	日本初の観劇MaaSアプリ(チケットシステム付)制作事業	—	—			
2-③	インフォメーションセンター運営	城崎温泉に英語対応可能スタッフが常駐するインフォメーションセンターを運営。(補助事業外)	城崎温泉に英語対応可能スタッフが常駐するインフォメーションセンターを運営。(補助事業外)			
2-④	文化観光多言語対応	—	—			
2-⑤	演劇観光列車運行事業	—	地元の歴史や文化等が組み込まれ、沿線地域を知ることのできる公演内容となる演劇列車を2日間運行(計2回公演)した。			3.8百万円
2-⑥	利便性向上による回遊促進事業	—	豊岡市内で活動しているゲストを迎えてまちと演劇のつながりについて一緒に考えるトークイベントを1回実施した。 豊岡演劇祭2022の開催にあわせ、豊岡市の観光地や飲食店をチェックポイントとしたスタンプラリーを実施し、290名が参加。			
3-①	夜間帯における新たな市場創出事業	ナイトマーケットを計画したが中止。	豊岡演劇祭期間中、滞在時間を増やす取組として、市内駅前や市役所前で5日間の野外ナイトマーケットを開催。			
3-②	飲食・宿泊事業所における名作文学リーディングによる高付加価値造成事業	文学作品リーディング公演を計画したが中止。	『よるよむきのさき』と題して、城崎温泉を舞台に食事の後、古典文学作品を全国から選りすぐった俳優達が読む(リーディング)プログラムを開発し販売、計4公演実施。			6.0百万円
3-③	レストランバス事業	—	—			
4-①	深さをもった演劇のまちづくり紹介冊子作成事業	—	豊岡演劇祭での取組に加え、社会や生活の様々な場面に演劇や演劇的なものの考え方などが染み込み、新たな地域活力が創出されることを伝える内容の冊子(A5判18P)を作成。			7.0百万円
4-②	豊岡演劇祭プロモーション事業	ホームページ、パンフレットの作成。	ホームページとパンフレットを作成。			
4-③	豊岡市外国人旅行者向けサイト「VisitKinosaki」事業	全ページ英語で構成されているインバウンド向けサイトを運営。(補助事業外)	全ページ英語で構成されているインバウンド向けサイトを運営。(補助事業外)			
5-①	城崎国際アートセンターの受入体制整備事業	—	キャッシュレス決済環境を構築。(補助事業外)			1.1百万円
5-②	玄武洞公園ホームページ作成事業	—	リニューアルオープンする玄武洞公園の魅力を発信するため、基盤となるホームページを新規に作成。			
各年度ごとの実績額→		9.4百万円	32.9百万円			42.3百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析)

- ・事業番号1-②、1-④、1-⑦、2-⑤、2-⑥、3-①、3-②、4-②については、R4年度豊岡演劇祭2022において実施し、豊岡演劇祭来場者数の増加につながっている。
- ・事業番号1-①については、計画通り事業を実施し、拠点施設の魅力発信を行っている。
- ・事業番号5-②については、玄武洞公園がリニューアルしたタイミングでホームページを新規作成し、アクセス情報やイベント情報等を適宜発信することにより、市内外からの誘客につながっている。

(評価)

- ・R3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、豊岡演劇祭が中止となるなど、多くの事業を実施することができなかった。
- ・R4年度については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、ほぼ計画通りに事業を実施することができた。
- ・実施できた事業については、計画目標の達成状況からも想定通りの効果をあげていると考えている。

⑤ 拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	城崎国際アートセンター
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		・城崎国際アートセンターが「演劇・舞台芸術の解説」「深さをもった演劇のまちづくり」の発信拠点として紹介動画を放映し、新たな地域活力が創出されることを伝える内容の冊子を作成した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		・メディアツアーの参加者にWEBで城崎国際アートセンターの記事を雑誌とのタイアップで公式サイト（月間PV数570万超え）に掲載を行ってもらっている。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		・外国語（英語）を話せるスタッフが勤務している時は、外国語（英語）を用いた解説・紹介を行っている。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		・豊岡演劇祭の開催に際して、旅行商品の造成や宿泊地の調整、公演会場等の調整を通して地域の観光事業者、交通事業者、文化施設等との連携体制の構築が進んだ。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		・目標数値等の各種データは、豊岡のDMOである豊岡観光イノベーションと連携して収集体制を構築し、整理・分析を行っている。 ・豊岡演劇祭においては、来場者アンケートを行い、データ収集を行っている。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		・文化観光推進の考え方は、豊岡市が2018年に作成した「豊岡市大交流ビジョン」と同様と考えており、方針やKPIの設定も連動して行っている。 ・"深さをもった演劇のまちづくり"のリーディングプロジェクトである豊岡演劇祭は、豊岡演劇祭実行委員会の方針を各プロデューサーで構成するプランニングチームで計画・実行に移し、実行委員会で振り返りを行い反省点などを次年度以降に反映していく体制を構築している。

⑥ 観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
豊岡ツーリズム協議会	昨年開催された豊岡演劇祭2022においては、来場者数は延べ約1万8千人、経済波及効果は約1億3,700万円に上り、演劇と地域の大きな可能性を感じた。また、アンケート結果からわかるように、来場者に占める関東居住者の割合が観光目的で訪れる方々の割合よりも多いことから、新たな客層の獲得にも寄与していることがわかる。今後は、新型コロナウイルス感染症による制限もなくなると予想されることから、国内はもちろんだが海外からの誘客の要因になることを期待している。

⑦ 今後の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の効果を把握するため、来訪者に対してきめ細やかなアンケート調査を実施する。 ・豊岡演劇祭の自走に向けて、マネタイズを意識した取組を進める。 ・豊岡演劇祭については、海外向けコンテンツを増加させ、新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた国外からの誘客にも注力し国際化を目指す。 ・観光入込客数（外国人延べ宿泊数）については、今後も豊岡市外国人旅行向けサイト「Visit Kinosaki」を中心としたプロモーションの強化と高付加価値事業等を活用した受入環境整備により、目標達成に努める。 ・観光入込客数（国内旅行者延べ宿泊数）については、豊岡演劇祭を中心とした文化コンテンツや玄武洞公園などジオサイト等の魅力を強化・PRし、増加を図る。
